

第13回核融合科学ネットワーク委員会議事メモ(案)

日時：平成12年9月19日(火)午後1時40分～5時20分

場所：核融合科学研究所 研究棟4階大会議室(402号室)

出席者：山崎、本島、藤原、濱田、上村、伊藤、花田、後藤、飯尾、若谷、佐藤、北條、
入江、井上、高村、大藪、室賀、大久保、三間、伊藤(公)、松岡、庄司(書記)

・はじめに

- 議事の進め方について(山崎)

配布資料の番号付け

議事録の確認など

「核融合科学分野の共同研究環境の整備について」(九大資料)が文部省に提出された。

- 委員会参加者について(山崎)

花田、入江先生が今回の委員会参加者リストから抜けているので訂正することとしたい。

オブザーバーとしてNIFSの方が当委員会に参加されている。

- 核融合科学ネットワークのホームページについて(山崎)

<http://f-net.nifs.ac.jp>に核融合科学ネットワークのホームページを作成した。

討論

国際協力、継続的協力体制、ITER組織についての議論がなされた。

・報告事項

- 1) 学審ヒアリングについて(藤原)

学術審議会原子力部会でのヒアリングについて報告がなされた。

「研究活動の現状と今後の展望について」の冊子

核融合科学ネットワークの構成の説明

ネットワーク活動を通じての大学等における核融合科学研究の推進の方策について

炉工学のネットワーク活動について(中性子・材料研究が急務となっている)

原研との連携協力に関する協議会について

理論シミュレーション分野における交流について等の報告

- 2) 将来計画小委員会経過(若谷)

炉心プラズマ分野関連の将来計画小委員会の経過報告がなされ議論がなされた。

広報活動が重要である。(ウェブの活用が検討されている。)

ミラープラズマに関するレポートが作成されている。

(次回はレーザーのレビューが行われる)

委員会内のメンバー(約20名)ではカバーしきれないので補助委員を検討している。

討論

レビューのタイムスケジュール、将来計画委員会の組織構造についての議論がなされた。

- 3) JT-60改修計画検討委員会(高村)

報告書に沿っての説明がなされた。

コメント

原研の今後の方針に関する情報収集、科技厅と文部省との認識の違いに関する

コメントがあった。

4) 原子力長計(井上)

ウェブページ上に情報が公開されているので意見をお願いしたい。

5) その他

核融合科学分野の共同研究環境の整備についての報告(後藤)

コメント

学生への核融合の魅力の提示が必要。

核融合関連のコミュニティーのまとまりが重要である。

行政を変化させることが重要である。

・審議事項

1) 核融合科学ネットワーク委員会規則について(高村・山崎)

規則案の最終的な修正・確認をおこなった。

第1条は「大学における……一部に關与する研究所で構成する。」とする。

第2条は「(1)効率的な……、(2)活力ある……」に変更する。

条文の改訂については座長に一任することとなった。

暫定委員長の高村先生が正式な委員長に選出された。

出席者名簿の最終行の「所内」を「核融合研」に訂正することになった。

附則には今日の日付(2000年9月19日)を入れることになった。

幹事(委員長)として飯尾先生が選出された。

世話人(NIFS)として山崎先生が選出された。

平成12年度はメンバーを現在のまま変更しないことになった。

ネットワーク委員の任期期間中における停年に関する議論は次回以降に持ち越された。

慣性核融合関連の人員増について次回会合で議論することになった。

議論

第2条(1),(2)の効率化、活性化などの言い回しを改めた方が良い。

句読点の付け方に注意。

第9条に規則の改訂を定めた文を挿入する。

プラズマ・核融合学会に本規則について掲載説明してはどうか？

第1条の「…プラズマ科学の一部(核融合基礎)の研究者で…」に訂正すべき。

大学中心のネットワークであることを前面に出すべきである。

学術研究という言葉を入れたい。

第2条に他分野への発信、研究活動の自己評価について明示したい。

構成員にアドバイザーとして外国人を入れてはどうか？

第1条に「大学における…」とした方が良い。

核融合科学ネットワーク委員会規則を核融合科学ネットワーク内規とすべきか？

平成13年4月でメンバーを入れ替わるようにしてはどうか？

平成14年度までを一区切りとするべきか？

メンバーの自己補充を次回会合に考えたい。

2) LHD計画共同研究について(山崎)

12月22日(金)に開催する方向で動くことになり、後日詳細をお知らせすることになった。

コメント

来年度以降新規の研究課題を公募するかどうか？

現在の研究の状況をチェックする必要がある。
報告会を開催するべきである。発表には制約を設けるべきである。
例えば、LHDへの貢献、教育効果など…。

3) 今後の進め方について

ネットワーク委員会における今後の活動について(高村)

- (1) 未来開拓推進事業への対応
- (2) 研究基盤重点設備費への対応
- (3) 九大応力研での会合からの提案
- (4) NIFSにおける共同研究体制の改善

上記の4項目に関する議論がなされ、出された意見をもとに核融合科学研究所にて議論を進めることとした。

コメント

- (1) については詳しい情報が欲しい。
- (1) に核融合が入るのは困難ではないか？
この状況を打破するためにネットワーク委員会としてアピールすべき。
科研費に関する作業グループ(小委員会)を作って対応したらどうか？
(まずは調査を行うべき)
大学(中小規模の装置)の重要性を明らかにすべきである。

4) その他

- ・ 九大会合からの提案についての議論がなされた。
- ・ これまでの核融合研究の成果に関する議論がなされた。

コメント

核融合研究者がプラズマの研究の広がりを見た方が良い。
研究全体を議論するべきである。長期ビジョンを打ち立てるべきである。
外部から見ると核融合研究はまとまっていないように見られている。

・ 配布資料

1. 第13回核融合科学ネットワーク委員会(報告事項・審議事項など)
2. 核融合科学ネットワーク委員会規則
3. 第13回核融合科学ネットワーク委員会出欠者名簿
4. 第12回核融合科学ネットワーク委員会(拡大)議事録案
5. 「核融合研究関係機関間の連携・協力に関する協議会」中間報告
6. JT-60改修計画検討委員会報告書
7. 核融合科学分野の共同研究環境の整備について
8. 核融合科学ネットワーク委員会への意見発信

解散(17:20)